

高潮が満潮時に起これば、災害がより大きくなることは当然のことである。

したがって、警報では台風の襲来時に近い満潮時刻に言及して『今日（今夜）の満潮時は〇〇時頃であり、この頃、高潮に警戒して下さい』などという表現がごく普通に用いられている。

しかし、実は、この種の表現には大きな落とし穴があることに留意しなければならない。

というのは、この表現を聞いた人は、「高潮については、〇〇時頃の満潮時を警戒すればよいのだ。満潮時以外は安全なのだ」と考えてしまうからである。

ところが、現実にはどうだろうか。

伊勢湾台風の時潮位曲線は第8図のようである。

高潮のピークは干潮と満潮の中間の時刻に起きている。図を見ればすぐわかるように、伊勢湾台風ほどの猛烈なものになると気象潮は3~4mにも達し、そのピークの起時は、干満の時刻に左右されないのである。つまり、ピークは満潮時以外にも起きるのであり、極端ない方をすれば、干潮時に於てさえ、大被害を生ずるような高潮が生じうるのである。とくに小潮の場合にはこの可能性が大きい。

したがって、警報文に前記のような表現を用いて満潮時頃の警戒を呼びかけていると、意外な時刻に高潮がピークとなり、不意打を受け、とんでもない惨事になる恐れがあるのである。

『高潮が満潮時に起これば顕著なものになる』ことは真であるが、その逆、すなわち、『顕著な高潮は満潮時に起きる』ということは必ずしも真ではないのである。

したがって、警報文では、あくまでも高潮のピークの子想される時刻を主体として、『高潮は〇時から〇時頃、特に警戒を要する……』などと指摘することが肝要であり、「満潮時の〇〇時頃に注意……」といった表現は用いない方がよいのである。

以上3項について紹介した。退職したおかげで、現役の時には公には云えなかった事も明言できた。今後の台風予報にいくらかでもお役に立てば幸である。

文 献

- 気象庁, 1961: 気象庁技術報告第7号(1961), 伊勢湾台風調査報告.
中部日本新聞社, 1959: 伊勢湾台風の全容, 1-104.

「水文・水資源学会 (Japan Society of Hydrology and Water Resources)」設立さる

去る3月12日、250名余の発起人の呼びかけで「水文・水資源学会」が正式に発足した。初代会長には岩佐義明(京大・工・教授)、副会長には高棟琢馬(京大・工・教授)、浅井冨雄(東大・海洋研・教授)、丹保憲仁(北大・工・教授)、塚本良則(東京農工大・農・教授)、丸山利輔(京大・農・教授)が選出され、19名の理事とともに会の運営等を行うことになった。もとより水に関する学問分野は、気象学、地球物理学、地質学、地理学、土木工学、農業工学、林学、砂防工学、衛生工学、法学、社会学、経済学などと、きわめて多岐にわたるが、本学会はわが国で初めてこれらの学問分野を横断的に組織した学会である。また、本学会は実社会や技術現場からの研究課題の発掘と研究成果の社会への速やかな還元を図るべく、学者・研究者のみならず、官界、民間の水関連行政官や技術者にも広く参加・協力をいただい

り、さらに国際化に対応すべく、国内における関連学・協会はもとより国際的な学・協会および研究機構との連携を図り、国際的な研究交流と協力においても先導的役割を果たすことを目指している。具体的な活動としては、1) 研究発表会、シンポジウム、現地見学会などの開催、2) 学会誌の発行(当年度2回)、3) 水文・水資源研究に関連する国内外研究活動、会議等に関するニューズレターの発行、4) 特定研究テーマに関する研究部会活動、等を予定している。すでに今年度の研究発表会を8月3日~5日に東大で開催する準備も進められている。4月1日現在で会員数は708名である。入会等詳細な情報は事務局(日本学会事務センター内「水文・水資源学会」、〒113 東京都文京区弥生 2-4-16、電話 03-817-5801)に問い合わせられたい。

(世話人 近藤 純正)